

令和3年度 丹波篠山黒豆情報

第2号 令和3年8月23日 丹波篠山市・JA丹波ささやま・NOSAITひょうご丹波篠山事務所・丹波農業改良普及センター

＊丹波篠山市内6カ所に調査定点を設置しています。

【生育】（令和3年8月20日丹波篠山市定点調査結果より）

	主茎長 (cm)	主茎節数 (節)
令和3年	72.8	17.6
平年(過去10カ年平均)	70.3	17.6
平年比	104%	100%
令和2年(参考)	59.9	15.3

- ・主茎長は平年（過去10ヶ年平均）比104%とやや長く、主茎節数は平年比100%で平年並みです。
- ・梅雨明け（7月17日頃※気象庁速報値）後は、高温・乾燥傾向で推移したため、中耕・培土作業が順調に進んだほ場が多く見られました。
- ・8月以降、一転して降水量がかなり多く（8/1～8/20までの積算降水量は331.5mmで、平年比362%※丹波篠山市消防本部データ）、湿害による生育停滞等が懸念されましたが、概ね順調に生育しています。

【病害虫】（令和3年8月20日丹波篠山市定点調査結果より）

	立枯性病害 株率 (%)	カメムシ類 虫数/株	ノメイガ類 被害株率 (%)	サヤムシガ 被害株率 (%)	アブラムシ類 頭/小葉	ハダニ類 頭/小葉
令和3年	10.00	0.03	4.17	0.00	0.00	0.17
平年(過去10カ年平均)	2.40	0.10	3.71	16.35	0.04	0.38
平年比	417%	30%	112%	0%	0%	45%

- ・立枯性病害（茎疫病、黒根腐病など）の発生は、平年より多い傾向です。特に、茎疫病の病原菌（遊走子）は、水中を移動して植物体に感染するため、停滞水が発生したほ場を中心に被害が多発しています。梅雨明け後、乾燥ストレスにより植物体が弱った状態になったことも発生が多かった一因と考えられます。
- ・カメムシ類、サヤムシガ、アブラムシ類、ハダニ類などの害虫の発生は、平年より少ない傾向です。
- ・ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺数は、増加傾向で推移しており、一部のほ場でハスモンヨトウの若齢幼虫が発生しています。
- ・一部のほ場でダイズシストセンチュウの発生が見られます（感染すると茎葉が黄化し、生育が悪くなる症状が見られる）。

【今後の対策】

1 立枯性病害（茎疫病）対策

- ①茎疫病の発生が多く見られます。今後の降雨状況によっては、停滞水が要因となり、茎疫病の発生が増加することも予想されます。排水溝の手直しや排水溝と排水口の連結などは場の排水対策の徹底に努めましょう。
- ②茎疫病が発生した場合は、発病株を早急に抜き取り、抜き取った株は、ほ場外に持ち出して処分するとともに、薬剤防除を行いましょ。う。
- ③茎疫病は株元から発病するため、防除の際は薬剤が株元に十分かかるようにすることが重要です。

上記の「薬剤防除」における防除薬剤については、必ず「丹波篠山黒大豆栽培こよみ」で確認してください。

2 害虫対策

- ①平年に比べて発生が少ないですが、カメムシ類、マメシクイガ、フタスジヒメハムシなどは、着莢期・莢肥大期に莢を吸汁・食害して被害が大きくなるため、定期的な薬剤防除を徹底しましょう。
- ②ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺数は増加傾向となっています。食害を受けて白く見える葉（白変葉）は早めに除去し、薬剤防除を実施しましょう。
- ③ダイズシストセンチュウの発生が見られるほ場があります。作業順序（発生ほ場は最後に回す）や作業方法（農機具や長靴などの洗浄）を工夫し、シストを含んだ土壌

上記の「薬剤防除」における防除薬剤については、必ず「丹波篠山黒大豆栽培こよみ」で確認してください。

3 干害対策

- ①現在は、降雨量の多い状況ですが、今後、乾燥が続く場合は、谷が白く乾く前にかん水を行いましょ。う。粒肥大期（9月中旬）にかけて土壌水分が不足すると、落花・落莢を引き起こし、着莢数や莢重の減少につながります。
- ②かん水は、日中の暑い時間は避け夕方または早朝に実施し、水は溜めたままにしないようにしましょ。う。かん水後の長期の停滞水は、逆に湿害等を招く恐れがあるため、注意しましょ。う。

4 台風対策

- ①強風で葉がもまれた場合は、斑点細菌病対策として殺菌剤で防除しましょ。う。

【参考：気象データ※丹波篠山市消防本部気象データ参照】

